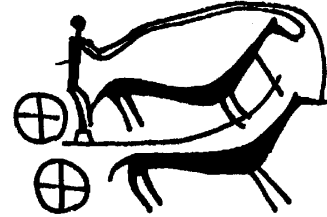


# センターニュース

Hokkaido University  
Center for Research and Development in Higher Education

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Newsletter No. 34



## 特集：2001年度の全学教育

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 95年度以来のカリキュラム改革 .....                | 3 |
| 履修調整についての掲示 .....                    | 5 |
| 2001年度の学期毎の授業開講予定日数一覧 ..             | 6 |
| 年度はじめの履修調整日程 .....                   | 6 |
| 2001年度全学教育部行事予定表 .....               | 7 |
| 2001年度全学教育科目における各部局の授業<br>担当状況 ..... | 8 |

## センター研究発表会

|                     |    |
|---------------------|----|
| 高等教育フォーラムのご案内 ..... | 10 |
|---------------------|----|

## 高等教育開発研究部の来年度の活動方針：

|                    |    |
|--------------------|----|
| 教育評価に関する研究など ..... | 10 |
|--------------------|----|

## 2001年度高等教育開発研究部

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 研究員予定者一覧 .....           | 11 |
| 生涯学習計画セミナーが実施されました ..... | 11 |
| 第5回士幌町生涯学習講座がはじまりました ..  | 12 |
| 大学インターンシップ研究会のご案内 .....  | 12 |
| 北大らしい選抜方法の確立を .....      | 13 |
| 高校生への北大紹介 .....          | 13 |
| センター日誌・行事予定・編集後記 .....   | 14 |

## 巻頭言

FOREWORD

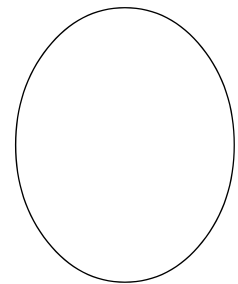
# 全学教育のコアカリキュラム

文学研究科教授 植木 迪子

この4月より、いよいよ北海道大学における全学教育のコアカリキュラムが始まります。1996年頃より全国の大学が連携して、21世紀の高等教育の可能性をもとめてコアカリキュラムの研究をおこなってきました。北海道大学では、高等教育機能開発総合センターが1997年に、高等教育研究部および多くの学部の教官からなるコアカリキュラム研究会を発足させました。ここで行われた議論は、『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—』の4号および6号にまとめられています。

コアカリキュラムとは何なのか、ということがま

ず問題となりますが、この概念はもともとアメリカ合衆国において、リベラルアーツ教育の中核、つまりコアをなす「全人教育」のための教育課程のことでした。そこには「専門的職業人が社会で専門性を発揮するためには、普遍的一般性、人間性、社会性を身につけている必要があります、これがあってはじめて専門性が社会で生かされる。」(注1)という考えが基本にあ



ります。

北海道大学では、平成7年度より学部一貫教育がはじまりました。このときに設定された「全学教育科目」に対して、当時コアカリキュラムという概念は用いられませんでした。結果としてはコアカリキュラムの精神を反映したものとなっていました。しかし、各科目の担当教官はコアカリキュラムを意識して授業を展開していたわけではありませんので、コアカリキュラムの理念や体系性は実現されませんでした。このため、基本的には学部一貫教育発足時の科目設定を大きく変えることなく、コアカリキュラムへ向けての再構築が必要となりました。これが、来年度よりはじまる全学教育科目のコアカリキュラムであり、再構築の基本方針は以下の様なものでした。

- (1)全学教育科目を教養科目と基礎科目に大きく分類する。
- (2)教養科目に一般教育演習、分野別科目、複合科目、共通科目、外国語科目を設ける。
- (3)健康科学は教養科目にふくめ、実技中心の体育学は独立させる。
- (4)一般教育演習は1年次のフレッシュマンセミナーと位置づけ、このために履修者を原則的に20名に限定する。
- (5)論文指導は一般教育演習および分野別科目で展開し、履修者を30名に限定する。(注2)

全学教育科目の再構築とあわせて、コアカリキュラムを実効性のあるものとするために力を発揮しなければならないのが、平成11年に制定された科目責任者体制です。科目責任者会議の仕事は、「全学教育科目の授業内容、成績評価基準、授業開講数、授業担当者の選定、予算の運用などに関して、各部局

のあいだの調整などのために必要な協議を行うこと」と定められています(北海道大学全学教育科目責任者に関する要項,第5条)。この科目責任者会議は、平成12年度には新しいコアカリキュラムの開講にむけて、開講数の確保や担当者の選定、予算の運用についての協議を幾度かおこないましたが、授業内容や成績評価の基準などについては手つかずのままでした。これは、平成13年度以降の課題となるわけですが、これこそがコアカリキュラムが本当に動き出すのかどうかということに関わっています。また、コアカリキュラムが機能するかどうかは、実は北海道大学の将来がどうなるのかということと密接に関連しています。全学教育と専門教育、ひいては北大全体の教育の相互関連については、注にあげた論文をはじめとし、『高等教育ジャーナル』掲載の諸論文を参照していただきたいと思います。

全学教育のコアカリキュラムは、この4月よりその実現の第一歩を踏み出そうとしています。しかし現在あるのは、コアカリキュラムの理念という器だけであって、このなかに何を盛るのは科目責任者や授業担当教官の今後にかかっているということなのです。皆様のご協力をお願いいたします。

(高等教育機能開発総合センター長補佐)

## 注

1.阿部和厚他(1998),「全学部に共通するコアカリキュラム 全学教育は校風をつくる」,『高等教育ジャーナル 高等教育と生涯学習』4, 3頁

2.阿部和厚他(1999),「全学共通コアカリキュラムの具体的構築」,『高等教育ジャーナル 高等教育と生涯学習』6, 79頁参照。

## 特集：2001年度の全学教育

# 95年度以来のカリキュラム改革

## ｜第6回全学教育委員会ー

1月17日（水）に第36回（平成12年度第6回）全学教育委員会が開催され、つぎのような議題について話し合われました。

- 議題1.平成13年度全学教育科目の開講予定（案）
- 議題2.全学教育科目見直しに伴う振替表（案）
- 議題3.平成13年度全学教育部行事予定表（案）
- 議題4.平成13年度全学教育科目のTA（案）
- 議題5.教育職員免許法施行規則66条の5に定める科目
- 議題6.平成13年度全学教育科目に係わる既習得単位の認定
- 議題7.平成13年度新入生オリエンテーションの実施

- 報告事項1.全学教育科目に係わる英文表記
- 報告事項2.全学教育科目のシラバスの入力
- 報告事項3.「学生の声」投書箱活用の状況

### 140コマの一般教育演習

議題1では、資料にもとづいて山口委員より以下の要点について説明があったのち、審議に入りました。

- 1) 1年次の開講計画は、新授業科目を基に作成しており、2年次の教養科目の開講計画は、新しい授業科目を現行の授業科目に振り替えることで対応させてあり、これについては議題2で審議すること。
- 2) 第1学期に総長、部局等の長による「北海道大学の人と学問」は、履修者が殺到することが予想されるので、火1および金1の2コマ開講するこ

と。また、第2学期は本学の卒業者による「大学と社会」を開講すること。

- 3) 一般教育演習は、140科目で本年度と同じコマ数が確保できたこと。学期毎の開講数は、第1学期86科目（6割強）、第2学期54科目（4割弱）でバランスがとれていること。
- 4) 一般教育演習は、総開講科目数の1割までは、非常勤講師（OB教官）の担当を認めており、来年度は第1学期に8名、第2学期に2名の合計10名（文学部6名、理学部2名、工学部および獣医学部各1名）であり、基準内であるので認めることとしたい。
- 5) 来年度の分野別科目および一般教育演習を集中講義で実施する予定のものが4件あること。
- 6) リメディアルクラスがこれまでより増えたこと。
  - 物理学：工学部（材料化学系，社会工学系），薬学部
  - 生物学：理学部（化学系），薬学部，獣医学部

### 履修調整を実施

平成13年度全学教育科目開講予定は、審議のうえ了承されましたので、今回のセンター運営委員会に諮られることとなりました。また議題1に関して、前出委員長より以下の要望がありました。

- 1) 来年度から履修調整を実施する（注1）にあたって、時間割への講義室のわりふりについては、全学教育委員会小委員会に一任をお願いしたい。
- 2) 一般教育演習は、それぞれの部局における常勤の講師以上10名につき1名の割で担当していただくこととなっていますが、歯学部，農学部，獣医

学部および遺伝子病制御研究所については、引き続き開講科目の確保に努力していただきたい。

- 3) 複合科目および一般教育演習で非常勤講師をお願いする場合の任用部局については、「実施の手引き」109頁の非常勤講師任用に関する取り扱い(注2)によるので、遺漏のないようお願いしたい。

議題2では、平成12年度までの入学者に関する新旧授業科目の振替表について、植木委員より説明があり、審議のうえ了承されました。また、科目の対応関係について混乱がないよう、掲示や学部教務掛を通じて対象となる学生への連絡などを行うことが確認されました。

## 定期試験が7月下旬ー8月上旬に

議題3では、来年度の全学教育部の行事予定(注3)について、審議に先立ち山口委員より以下の説明がありました。

- 1) 平成13年度の最大の変更点は、これまで夏季休業中の8月下旬から9月上旬にかけて行っていた補講期間および定期試験を、7月下旬から8月上旬にかけて実施することにしたことであり、第1学期授業終了後3日間を補講とし、その後引き続き定期試験を9日間実施し、追試験を3日間として計画していること。
- 2) 第1学期は祝日等の関係で、金曜日が12回しかなく(表1参照)、これに対して水曜日は15回あるため、7月23日(月)から25日(水)までの補講期間の水曜日は、金曜日の授業を優先的に充てることとしたいこと。
- 3) これまで定期試験期間中に七大戦が組まれており、希望者が殺到するようであれば、従来は午前午後ともに1コマであった追試験を、午前1コマ、午後2コマ設定することも予想されること
- 4) 1学期の夏季休業の終了日を9月26日(水)とし、木曜日または金曜日に第2学期の時間割および学修簿の配布を考えていること。

議題3の審議において、七大戦出場を理由とする追試験には担当教官の許可印が必要なことを教官に周知することが確認され、了承されました。

## 講義科目にもTA

議題4では、平成13年度全学教育科目のTAについて審議し、資料のとおり認めることとしました。来年度のTAに関しては、新たに講義科目についても認めることにしたこと、非常勤講師につけるTAはフィールドワークに限って認めること、一般教育演習の1コマとして図書館情報検索にTAをつけること、情報処理の開講科目数増加にともないTA数が増加したこと、要求額が400万円程多くなったが、これは今後のTA経費増額へむけての布石であり、来年度は授業実施期間における補講を除いた正規の時間数をもとに任用学部に配分し、示達額との差額分については、これまでどおり各学部から拠出いただきたい旨の説明がありました。

議題5では、全学教育科目の見直しに伴う科目名の変更にあわせて、教職員免許法の科目名を変更する旨の説明があり、了承されました。

議題6では、全学教育科目の見直しに伴い、全学教育部として認定の依頼を断わる科目を、これまでの科目にあわせて変更したこと、2年次は現行の授業科目となること、履修調整を実施するため、日程がこれまでより厳しくなることの説明があり、審議のうえ了承されました。

議題7では、新入生オリエンテーションを平成13年4月6日(金)午前10時より実施すること、実施は各学部が主体となり、配布資料の準備は全学協力でおこなうこと、また、平成13年3月22日(木)午後1時30分よりクラス担任全体会議を行う予定である旨の説明があり、了承されました。

## 注

1. 第34回全学教育委員会(平成12年9月21日)の報告においてすでにお知らせしてありますが、平成13年度より、すべての全学教育科目について、履

修希望者が、指定された教室の収容定員を超える場合は、履修調整を行うことが了承されております。これは、現状では科目によっては履修者数が講義室の収容数を超え、学生が通路にあふれる等授業を実施する上で支障をきたしていたためです。今回、表2の様な手順によって全学教育科目の履修調整を行うこととなりました。資料1は学生に対する掲示の手続きに関する部分および履修調整日程です。

なお、一般教育演習については、平成12年度と同一の方法による履修調整を行います。

2. 非常勤講師に関する決まり（全学教育科目実施の手引き109頁より抜粋）

「なお、複合科目（これまでの総合講義）の開講に伴う非常勤講師の任用については、当該講義科目の代表担当教官が在職する学部において行う。代表担当教官が学部以外の部局（大学院地球環境科学研究科、附置研究所学内共同教育研究施設等）に所属する場合は、当該講義の内容に最も近い分野の学部において当該非常勤講師を任用する。」

## 資料1 履修調整についての掲示（全文）

### 1. 大講堂及びS2講義室で実施する授業に係る履修調整の方法について

- (1) 全学教育に係る授業科目で時間割に大講堂又はS2と表示してあるものについては、4月11日（水）から4月17日（火）までの1回目の授業の際に「履修許可票」を当該講義室入口で配布し、収容予定数に達した時点で配布をうち切ります。なお、授業が休講の場合は、「履修許可票」のみ配布・回収します。
- (2) 「履修許可票」を受け取った学生は必要事項を記入し、当該授業の終了後、退出する際に出口で回収するので必ず提出すること。なお、退出の際に「履修許可票」を提出しなかった者は履修しないものとして取り扱います。（回収後の提出は認めません。）
- (3) 「履修許可票」を正しく記入して提出すると、履修がその時点で確定します。その後の取り消しは認めません。

### 2. 一般講義科目の履修調整の方法について

- (1) 履修届を基に各科目ごとの履修者数を掌握後、履修者数に基づいて講義室の変更・調整を行います。履修届の記入に当たっては、次の点に十分注意してください。
  - ・履修の登録は講義番号を優先します。
  - ・講義番号が未記入の場合は、授業科目名が記入されていても科目登録は認めません。
  - ・原則として、履修届提出後は登録科目の追加・変更等は認めません。
- (2) 履修者数に基づいて講義室の変更を行っても調整がつかない場合は、当該科目について抽選により履修者を決定することとし、不許可となった者の一覧を掲示します。
- (3) 上記(2)により不許可となった者は、不許可となった科目数の範囲内で収容数に一定の空きがある授業科目の登録を認めます。
- (4) なお、上記のほか授業科目によっては、授業の内容により人数制限を設けることがあります。

表1 2001(平成13)年度の学期毎の授業開講予定数一覧

| 第1学期  |    |    |    |    |    |    |    |      |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 月     | 曜日 | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 合計 | 備考   |
| 4     |    | 2  | 2  | 3  | 3  | 3  | 13 |      |
| 5     |    | 4  | 5  | 5  | 4  | 3  | 21 |      |
| 6     |    | 4  | 4  | 4  | 3  | 4  | 19 |      |
| 7     |    | 3  | 3  | 3  | 3  | 2  | 14 |      |
| 授業の合計 |    | 13 | 14 | 15 | 13 | 12 | 67 |      |
| 7     |    |    |    | 3  |    |    | 3  | 補講期間 |
| 7~8   |    | 2  | 2  | 1  | 2  | 2  | 9  | 試験期間 |
| 合計    |    | 15 | 16 | 16 | 15 | 14 | 79 |      |

| 第2学期  |    |    |    |    |    |    |    |      |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 月     | 曜日 | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 合計 | 備考   |
| 10    |    | 4  | 5  | 5  | 4  | 4  | 22 |      |
| 11    |    | 4  | 4  | 4  | 5  | 4  | 21 |      |
| 12    |    | 3  | 3  | 3  | 3  | 3  | 15 |      |
| 1     |    | 2  | 3  | 3  | 3  | 2  | 13 |      |
| 2     |    | 1  |    |    |    | 1  | 2  |      |
| 授業の合計 |    | 14 | 15 | 15 | 15 | 14 | 73 |      |
| 1     |    |    |    | 3  |    |    | 3  | 補講期間 |
| 2     |    | 1  | 2  | 2  | 2  | 2  | 9  | 試験期間 |
| 合計    |    | 15 | 17 | 17 | 17 | 16 | 85 |      |

1. 公の行事の日数は授業数から除かれている。

? 6月7日(木) 開学記念行事日

? 6月8日(金) 大学祭

? 1月18日(金) センター試験の準備

表2 年度はじめの履修調整日程

| 月 | 日(曜日)       | 事項                          |
|---|-------------|-----------------------------|
| 2 | 初旬          | 学部学生に対し、履修調整の実施及び履修届提出関係の周知 |
| 3 | 下旬          | クラス担当会議(履修調整の内容の周知)         |
| 4 | 6(金)        | クラス別オリエンテーション(学生に対し文書で周知)   |
|   | 11(水)~12(木) | 一般教育演習履修希望調書受付(共通教育掛)       |
|   | 13(金)       | 一般教育演習履修希望調書データ入力及び結果出力     |
|   | 16(月)~17(火) | 一般教育演習履修許可一覧の掲示及び追加履修受付     |
|   | 11(水)~17(火) | 大講堂及びS2講義室履修調整(履修許可票配布)     |
|   | 18(水)~19(木) | 履修届受付                       |
|   | 18(水)~24(火) | 履修許可票の入力及び履修届データ入力(外注)      |
|   | 25(水)       | 科目毎の履修者数リストの出力              |
|   |             | 講義室調整。収容付加の場合は電算により許可者決定    |
|   | 26(木)       | 履修不許可者名簿及び各授業科目の履修可能数一覧の掲示  |
|   | 26(木)~27(金) | 追加履修届受付                     |
| 5 | 1(火)        | 追加分入力(外注)                   |
|   | 2(水)        | 結果出力(掲示)                    |
|   | 7(月)        | 履修届確認表及びエラーリスト出力            |
|   | 8(火)        | 履修届確認表の配布                   |
|   | 9(水)~11(金)  | 履修登録修正・変更                   |
|   | 14(月)       | 履修登録完了                      |

表3 2001(平成13)年度全学教育部行事予定表

(このページは取り外してご利用下さい)

表4 2001(平成13)年度全学教育科目における各部局の授業担当状況



表5 2001(平成13)年度全学教育科目における各部局の授業担当状況(続)

# センター CENTER

## センター研究発表会と高等教育フォーラムのご案内

第6回センター研究発表会および高等教育フォーラムを下記のように開催します。多くの方々のご参加をお待ちしております。

### 第6回センター研究発表会

日時：2001年3月26日(月) 9:30~12:00

会場：情報教育館 4F 共用多目的教室(2)

<生涯学習計画研究部> 9:30~10:40

「生涯学習における大学と地域の連携」

・淡海生涯カレッジを中心に 教授 木村 純

・兵庫県オープンカレッジを中心に 教授 町井 輝久

・大学コンソーシアム京都を中心に 研究部長 小出 達夫

・統括 小出 達夫, 町井 輝久, 木村 純

<高等教育開発研究部> 10:40~11:20

・北海道大学における学生調査と教員調査 研究部長 小笠原 正明

科目責任者の名称

・英国における「健康改善会」企画責任者 助教授 細川 敏幸

<入学者選抜企画研究部> 9:30~12:00

「体育学」企画責任者

「思索と言語」企画責任者

・平成13年度北海道大学AO入試に関する研究

「歴史の視座」企画責任者 山岸 みどり

研究部長 阿部 和厚, 教授

所 属

教育学部

教育学部

文学部

言語文化部

文学部

法学部

経済学部

文学部

言語文化部

文学部

法学部

経済学部

文学部

理学部

文学部

経済学部

理学部

理学部

理学部

理学部

理学部

工学部

工学部

言語文化部

言語文化部

言語文化部

言語文化部

言語文化部

言語文化部

言語文化部

### 高等教育フォーラム

日時：2001年3月26日(月) 17:00

会場：情報教育館 4F 共用多目的教室(2)

・1970年代から1990年代の高等教育の発展

東京大学総合教育センター 助教授 小林 雅之

「心理学実験」企画責任者

・ティップス先生の運用の成果

名古屋大学高等教育研究センター 教授 池田 輝政

「数学」企画責任者

「物理学」企画責任者

・授業改善の試み「初年度教育」における電子会議室(BBS)の活用

「生物学」企画責任者

「地学」企画責任者

九州大学大学院情報科学研究科 助教授 長野 剛

「情報科学概論」企画責任者

・全学共通教育と連携した学生相談活動

「英語」企画責任者

九州大学大学院教育研究センター 助教授 田中 健夫

「フランス語」企画責任者

「ドイツ語」企画責任者

「中国語」企画責任者

「外国語等」企画責任者

「日本語・日本事情」企画責任者

## 高等教育 HIGHER EDUCATION

### 来年度の活動方針：教育評価に関する研究など

去る2月8日(木), センター大会議室で行われたセンター運営委員会において, 2001(平成13)年度の高等教育開発研究部の活動方針が審議され決定されました。その原案は, 1月26日の高等教育開発研究委員会で審議されたものです。

研究活動については, (1)教育評価に関する研究, (2)「ファカルティー・デベロップメント」の研究, (3)論文指導の研究, (4)メディア利用教育の教材および教授法の研究が継続となりました。また新規に,

(1)コアカリキュラムにおける芸術分野の研究および (2)コアカリキュラムにおけるSTS(科学・技術・社会)科目の研究が開始されることになりました。この中でも特に「教育評価の研究」は, 教員個人の教育評価法を中心に2001年度中の完成を目指して取り組まれることになりました。また, 新規に開始される科目開発研究は, 全学教育のコアカリキュラム化に対応して新たに導入された科目群の内容を研究し, そのガイドラインの作成を目指しています。

客員教授としては、公募の結果候補者として推薦されたアルバニアのティラナ工科大学物理学教授で学科長のバーベリ、ペラム氏の招聘が承認されま

した。同氏は、2001年5月1日から同年12月31日まで滞在して、「社会情勢の変化に対応した大学入試制度と入学試験改革の研究」を行う予定です。

### 2001 (平成 13) 年度高等教育開発研究部研究員予定者一覧

| 職名           | 氏名     | 所属        | 専門分野  | 研究テーマ     | 区分                               |    |
|--------------|--------|-----------|-------|-----------|----------------------------------|----|
| 高等教育開発研究部 2名 | 森谷 隆   | 工学研究科     |       |           |                                  |    |
| (学内 13名)     | 鈴木 敏夫  | 理学研究科     |       |           |                                  |    |
| "            | 中戸川 孝治 | 理学研究科     |       |           |                                  |    |
| 氏名           | 講師     | 所属        | 川崎 義和 | 専門分野      | 研究テーマ                            | 区分 |
| 橋本 雄一        | 教授     | 文学研究科     | 川崎 義和 | 地域システム科学  | メディア利用教育の教材および教授法の開発に関する研究       | 継続 |
| 平川 一臣        | "      | 地球環境科学研究科 | 川崎 義和 | 地球生態学     | "                                | "  |
| 常田 益代        | "      | 留学生センター   | 川崎 義和 | 美術史および建築史 | "                                | "  |
| 櫻井恒太郎        | "      | 医学研究科     | 川崎 義和 | 医療情報      | "                                | "  |
| 瀬名波栄潤        | "      | 文学研究科     | 川崎 義和 | 英文学       | コアカリキュラムにおける芸術科目の研究              | 新規 |
| 堀田真紀子        | "      | 言語文化学部    | 川崎 義和 | 表象基礎論     | "                                | "  |
| 阿部 和厚        | "      | 医学研究科     | 川崎 義和 | 解剖学       | "                                | "  |
| 寺沢 浩一        | "      | 言語文化学部    | 川崎 義和 | 法医学       | 論文指導の研究                          | 継続 |
| 高橋 宣勝        | "      | 言語文化学部    | 川崎 義和 | 英語教育系     | "                                | "  |
| 杉山 滋郎        | "      | 理学研究科     | 川崎 義和 | 科学史       | コアカリキュラムにおけるSTS (科学・技術・社会) 科目の研究 | 新規 |
| 岸浪 建史        | "      | 工学研究科     | 阿部 純一 | システム情報工学  | "                                | 継続 |
| 三浦 清一        | "      | 工学研究科     | 阿部 純一 | 社会基盤科学    | "                                | "  |
| 牧野 英司        | "      | 工学研究科     | 阿部 純一 | 電子情報工学    | "                                | "  |
| "            | 辻下 徹   | 工学研究科     | 阿部 純一 |           |                                  |    |
| (学外 1名)      | 市川 瑞彦  | 工学研究科     | 阿部 純一 |           |                                  |    |
| 氏名           | 助教授    | 所属        | 若原 正己 | 専門分野      | 研究テーマ                            | 区分 |
| 川村 武         | 助教授    | 北見工業大学    | 若原 正己 | 電子工学      | メディア利用教育の教材および教授法の開発に関する研究       | 継続 |
| 吉田 宏         | 教授     | 旭川工業専門学校  | 若原 正己 | 科学教育      | 教育評価の研究                          | "  |
| 宮本 篤         | 教授     | 札幌医科大学    | 若原 正己 | 薬理学       | "                                | "  |
| 内田啓太郎        | "      | 北海道教育大学   | 若原 正己 | 情報社会学     | ファカルティ・ディベロップメントの研究              | "  |
| 羽二生博之        | "      | 北見工業大学    | 若原 正己 | 機械システム工学  | "                                | "  |
| 藤井博之         | 教授     | 札幌医科大学    | 若原 正己 | 化学        | "                                | 新規 |
| 倉持 勝久        | 教授     | 帯広畜産大学    | 若原 正己 | 畜産環境科学    | "                                | 継続 |
| 助教授          | 杉浦 秀一  |           |       |           |                                  |    |
| "            | 遊川 和郎  |           |       |           |                                  |    |
| 教授           | 古賀 弘人  |           |       |           |                                  |    |
| 助教授          | 山下 好孝  |           |       |           |                                  |    |

## 生涯学習

LIFELONG LEARNING

### 生涯学習計画セミナーが実施されました

生涯学習計画研究部が主催する公開講座である生涯学習計画セミナーが2月1日から開講しました。生涯学習における大学と自治体の連携の在りかたを検討することを主要なテーマに、自治体の生涯学習関連専門職員と大学の生涯学習担当者、地域における生涯学習のリーダーを対象とするものです。受講者は北海道教育委員会、札幌市生涯学習振興財団、石狩市、赤平市、新十津川町、北村などの自治体及

び財団の社会教育・生涯学習専門職員や北海道医療大学、札幌大学などの大学職員、生涯学習ボランティアの方がた19名です。第2回目には、兵庫県県民生活部生涯学習振興室課長補佐の鬼本英太郎氏をゲストとして迎え、兵庫県における大学と県の連携事業であるオープンカレッジやインターキャンパスの取組みを紹介していただき、大学と自治体の連携をどのようにコーディネートするかについて学びました。

## 第5回士幌町生涯学習講座がはじまりました

生涯学習計画研究部は、大学から離れた遠隔地域における生涯学習にどのように参画すべきかを公開講座を開設しながら研究を継続しています。士幌町と士幌町教育委員会が主催し、生涯学習計画研究部が協力して実施される第5回士幌町生涯学習講座が1月23日～2月24日の6回にわたって、60名余の受講者を得て開催されました。この事業で、生涯学習計画研究部が目指していることは、?地域の大学とのネットワークをつくりながら生涯学習に参画する、

?学習方法・形態において双方向性を実現し、地域住民参加型の学習への転換を図る、?生涯学習における大学と自治体の連携をすすめる自治体側のコーディネーターを養成する、などです。今年度については北海道教育大学釧路校の諫山邦子助教授（野外教育論）、北海道教育大学生涯学習研究教育センターの内田和浩助教授（生涯学習論）の参画を得るとともに、まちづくりについてのワークショップやフォーラムを受講者とともに取り組みました。

## 大学インターンシップ研究会のご案内

本学におけるインターンシップのあり方について研究討議を行うことを目的に、インターンシップを大学教育の中に取り入れて成果を上げている同志社大学の岡本博公教授をお招きして研究会を開催します。

多くの教職員のご参加をお願いいたします。

### インターンシップ研究会

企画者：小出 達夫（生涯学習計画研究部長）  
濱田 康行（経済学研究科教授）  
下田 浩氏（北海道経済産業局サービス産業係長）  
主 催：高等教育機能開発総合センター  
生涯学習計画研究部

1. 日時：3月8日（木）午後13：30 - 17：00
2. 場所：情報教育館4階 多目的教室 (1)
3. テーマ：  
京都における大学インターンシップの現状  
- 同志社大学と“大学コンソーシアム・京都”の事例から -
4. 報告者：岡本博公教授（同志社大学商学部）  
小出達夫教授（北大生涯学習計画研究部部長）  
お二人の報告をもとに討議を行います。

問い合わせ先：北海道大学高等教育機能開発総合センター 生涯学習計画研究部  
電話・ファックス 011-706-6069  
e-mail : syogai@high.hokudai.ac.jp

## 入学者選抜

ADMISSION SYSTEMS

# 北大らしい選抜方法の確立を

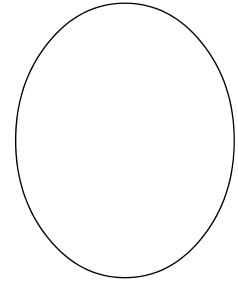
昨年10月より入学者選抜企画研究部の専任教員として、北海道大学におけるAO入試制度の支援と推進というチャレンジングな仕事に取り組んでいます。入学者選抜企画研究部の教員は、選抜方法や評価基準など入試の在り方に関する研究を行うと同時に、アドミッションセンターの構成員として広報活動をはじめAO入試の実務にもかかわります。北大の魅力を高校生にわかりやすく伝えるために、自分なりの北大についてのデータベースを構築しながら、どのように提示すればよいのか思案しています。また、多様化する日本型AO入試の展開に注目しつつ、基礎研究をベースにした北大らしい選抜方法が確立できるかどうかを模索しています。

私は、米国の大学院在学中にプログラム評価という、教育活動と研究を連携させる実践科学に出会い、

教育現場と政策決定者をつなぐ研究にかかわってきました。高等教育機能開発総合センターは、入学者選抜企画研究部が加わり4部体制で、入学から卒業後にいたる一貫した大学教育の

ありかたを総合的に実践・研究する、大変ユニークな教育研究組織です。専門分野の異なる教員が教育実践を行いながら、長期的な視点から大学教育のありかたを研究し、北大の教育に影響力を発揮しています。入学者選抜企画研究部においても、入学者選抜に関する実践的・理論的問題に取り組み、全学的な要請に応える研究を展開させていきたいと思っています。

(入学者選抜企画研究部 教授 山岸みどり)



## 高校生への北大紹介

入試は、大学が受験生を一方的に選抜するのではなく、大学と受験生とが相互に情報を提供しあったうえで、相互に選択し合う時代になってきています。大学から高校生への積極的な情報提供が求められています。3月には下記の2会場で、入学者選抜企画研究部教員が北大の魅力をアピールします。

### 月寒高等学校進路ガイダンスセミナー

日時：2001年3月17日(土) 10:50-11:50  
場所：第1体育館

「北大の今と未来」 助教授 鈴木 誠

### 北海道大学進学講演会 in 札幌

日時：2001年3月20日(火) 10:00-12:30(文系)  
13:30-16:00(理系)

場所：北海道厚生年金会館 3F ロイヤルホール

主催：増進会出版社

・北海道大学の魅力を語る～理系学部を中心に

医学研究科教授，研究部長 阿部 和厚

・北海道大学の魅力を語る～文系学部を中心に

教授 山岸 みどり

# センター日誌

CENTER EVENTS, Dec. - Jan.

## 12月

- 7日 ・ 第75回全学教育委員会小委員会
- 12日 ・ 高等教育開発研究部訪問：ソウル大学教育  
改革タスクフォースChan-ku BYUN氏ら3名
- 15日 ・ 高等教育開発研究部訪問：ケンブリッジ大  
学デビッド・ムーア氏
- 22日 ・ 第76回全学教育委員会小委員会
- 25日 ・ センターニュース第33号発行
- 26日 ・ 第58回センター教官会議

## 1月

- 10日 ・ 第36回センター運営委員会
- 11日 ・ 第77回全学教育委員会小委員会
- 15日 ・ 高等教育開発研究部訪問：徳島大学桑折範  
彦氏ら2名
- 16日 ・ 第18回公開講座専門委員会
- 17日 ・ 第36回全学教育委員会
- 25日 ・ 第59回センター教官会議
- 29日 ・ 第19回公開講座専門委員会
- 30日 ・ 第78回全学教育委員会小委員会

# 行事予定

SCHEDULE, Apr. - Aug.

|    | 【日(曜日)】        | 【行事】            | 【備考】 |
|----|----------------|-----------------|------|
| 4月 | 5(木)           | クラス担任代表会議【予定】   |      |
|    | 6(金)           | 新入生オリエンテーション    |      |
|    | 9(月)           | 入学式             |      |
|    | 10(火)          | 学部ガイダンス         |      |
|    | 11(水)          | 第1学期授業開始        |      |
|    | 18(水) ~ 19(木)  | 1年次履修届受付        |      |
|    | 19(木)          | 追加認定試験成績締切      |      |
|    | 18(水) ~ 19(木)  | 2年次以上履修届受付      | 当該学部 |
| 5月 | 上旬 ~ 下旬        | 定期健康診断          |      |
| 6月 | 7(木)           | 開学記念行事日         | 休講   |
|    | 7(木) ~ 10(日)   | 大学祭             | 休講   |
| 7月 | 19(木)          | 第1学期授業終了        |      |
|    | 23(月) ~ 25(水)  | 補講日             |      |
|    | 26(木) ~ 8月7(火) | 定期試験            |      |
| 8月 | 8(水) ~ 10(金)   | 追試験             |      |
|    | 30(木) 正午       | 定期試験及び追試験成績提出締切 |      |
|    | 8(水) ~ 9月26(水) | 夏季休業日           |      |

### 編集後記

昨年秋、エジンバラ大学で神経科学を専攻する2人の大学院修士課程の学生にインタビューしました。1人は学部で化学を専攻した学生ですが、1人は文学部の出身でした。文学部出身者に神経科学は難しくないかと質問したところ、「自分は人間の心理に興味を持ってこの分野に移ってきた。化学式や数式はいずれにせよ技術的な問題なので、最初はとまどったが何とかなりそうだ。むしろ、神経科学を勉強するための動機が重要だと思う。その点に関して私はユニークだ。」という返事が返ってきました。(杜)

### センターニュース 第34号

(北海道大学高等教育機能開発総合センター広報誌)

発行日：2001年2月25日

発行元：北海道大学高等教育機能開発総合センター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

電話 (011)716-2111 ・ FAX (011)706-7854

編集委員：小笠原正明・西森敏之・細川敏幸・

町井輝久・植木迪子・鈴木誠

ご意見、お問い合わせは 印の編集委員まで

電話：(011)706-7514; FAX (011)706-7521

インターネット ホームページ：http://infosys.academic.hokudai.ac.jp/center